

— アトゥモロックの多目的住民組合育成事業に郵政省国際ボランティア貯金寄附金配分決定！ —

6月25日に、青葉台郵便局で約140万円の配分金通知を受け、7月15日には早速現地に向かいました。翌16日には、組合の責任者や長老達とHANDSメンバー4人（篠原、笠井、倉田、森田、山崎）、およびCMB担当のノイ神父で、事業の打ち合わせをしました。サムラングと同様にアトゥモロックでも、種や肥料の購入費を高利の民間業者から借りなくてすむように、共同組合を育成する事業です。収穫後処理機械（コーンシェラーやコーンミル、それを動かすエンジン）の購入費、組合運営を学ぶセミナー経費も入っています。組合員も各100-200ﾊﾞｯﾄを出資し、第1回目の返済は収穫後の約4ヶ月目です。当初の組合参加者は40名を予定。代表は、カミンバギ。当会のハイスクール奨学生グファジャ・バギの父親です。

住民の多くは「先祖伝来の土地」と認められた3ヘクタール程度の土地の使用が可能です。ほとんど傾斜地ですが、資機材の貸与を受け、農業技術を学べば、医療や教育費負担も近い将来可能となるでしょう。成功の鍵は組合運営の理念と方法を身につけられるかどうかにかかっています。現地滞在中の会員の奈美さんも協力して下さる予定。（山崎）



●組合代表カミンバギ(右から2人目)



●ボランティア医師による歯科治療(クリニックにて)

— サムラングで、地元医療グループによる無料巡回診療 —

去る7月25日、医師や看護婦合計30人が、サムラングのKLAWIL GUTNGA（ライフセンター）の施設を利用して、一日無料診療を実施しました。主催は地元の教会ですが、ボランティアの医師、看護婦はダバオのNGOのメンバーで医療ミッション「タダウ・ミンダナウ」から派遣されました。

一方、医薬品はマニラのアヤラ医療財団の寄附とのこと。私たちのような小さなNGOの出来ることは限られていますが、今回の巡回診療は、まずクリニックや簡易水道など、コミュニティセンターの基礎造り支援をしておけば、より大規模な民間や政府機関の支援を導入することも可能になる例といえましょう。（奈美さんのFAX・文責/山崎）

— 一町の寮で、ハイスクール生徒達と交歓会 —

7月16日にはジェネラル・サントスのノビシエイト寮に住む生徒と、18日には、マーベルのSt.ガブリエルの庭で、10数名の学生と篠原さんのハーモニカ演奏などで交歓会。それぞれの夢も聞きました。

ジェネラルサントスのラガオ実業高校に通うヘンリーは、山の小学校（ポルル校出身）をこの春卒業したばかり。町の生活に慣れ、フィリピン語、英語での授業についていけるまでにはしばらく時間が必要かと思ひます。寮は仲間同志ピラーン語で話せてほっと出来る空間です。

ハイスクールとはいっても日本では中1～高1に当たる年齢層。もう一つの寮マーベルのSt.ガブリエルでは、大先輩のカレッジ4年のドリが、庭での私たちとの交歓会で、後輩が言葉に詰まったときなど助け船を出していました。ドリ自身はにかみ屋さんに見えましたが、寮では頼りになる兄貴なのでしょう。カレッジで英文学を専攻する彼は来年春の卒業予定。教師として後輩の教育に当たる日が待たれます。

ラムブソン校舎建設プロジェクトの手伝いをしてくれたアンソニー（ポルル校出身）は科学が好きなハイスクール4年生。カレッジに進んでエンジニアになりたいとのこと。将来のコミュニティー・リーダーの有望株です。アトゥモロック出身のスヌーリアはまだ2年生。しかし、彼も教師としてコミュニティーに戻ると約束してくれました。同じく2年生のグファジャの夢は神父。身近にいる神父たちが目標になるのはわかる気がします。ロンド（アトゥモロック出身）は、車の運転や整備を勉強中。コミュニティーへの道はどこも最悪で、車は受難の連続です。彼の技術が大変期待されます。ラムアプス分校出身のバージニアは歴史専攻のカレッジ学生。彼女も将来いいリーダーになりそうです。2年生になったはずの民族衣装が似合う奨学生A君がいません。ピラーン族と知られるのが嫌になって退学したとのこと。先住民族の社会的地位が低い今、彼の選択を非難は出来ません。

笠井さんと篠原さんは、学生達にとりあえず必要なものを聞いたり（日本の中古自転車を通学に、という話も出ましたが、法規無視でジブニーやトライスクルが行き交う現地の道路状況から危険では？ということで取り止めに）、子ども達の歓迎の歌（創作）に応じて篠原さんがハーモニカで「ふるさと」を披露したり、土曜の午後、寮の庭はひとしきり盛り上がりしました。（山崎）